

	令和8年度 喜々津小学校だより 第2号 な み 喜々津 かよく みんなで	令和8年 5月22日(金) 諫早市立 喜々津小学校 校長 前野 泰介 
---	--	--

学校と家庭と地域、**な**かよく**み**んなで子どもの**命**を守りたい！

「**な** **み** 喜々津」の**保護者**、**地域**の皆さん。やっと、学校だより第2号です。ご期待に沿うような発信ができておらず、申し訳ありません。

先日、PTAより安心安全メールにて連絡がありましたように、本校東門横断歩道上で車と児童の接触事故が起きています。詳細は控えますが、事故というのは、たまたまと言える要因がいくつも重なって起きるものだとして改めて認識しところです。



学校では、緊急職員会を開き、児童の交通安全指導の徹底を確認しました。また、翌日には、私自身が各学年を事故現場に集め、①止まること ②右左を見ることの2点を指導しております。「自分の**命**は自分で守る」が大前提です。

でも、皆さん。**学校**と**家庭**と**地域**とが「**チーム喜々津**」で子供を育てていくために、誤解を恐れずに申しますが、こういう事案が起きたときに一番よくない流れは、**家庭**と**地域**が「**学校**は何をしているのだ」と**学校**だけを責めることです。そうすると、**学校**は委縮して動きにくくなり、負の連鎖が起きてきます。結果、子供の**命**なんて守れない**地域・学校**になってしまう・・・。

でも、皆さん。ご安心ください。上述ではマイナスの表現をしましたが、本校は、そこは大丈夫です。翌日、**家庭**の代表としてのPTA本部が、横断歩道前の**黄色**のストップマークを貼り替え、安心メールで注意喚起を促してくださいました。**動きが早い！**その成果か、翌朝、多くの車が子供を見てしっかり停止しゆっくりと走行してくださいました。また、**地域**のお一人、登校見回りをしてくださっている警察OBの方が、警察にパトロール強化等の協力を依頼する旨の話をしてくださいました。既に「**チーム喜々津**」の基盤が築かれているんだなあ、と、何よりも心強く感じます。

ただ、本当に子供の**命**を守れるのか？という批判的視点で見ると、学校駐車場の乗入れ場所の変更や、路上で子供を降ろす保護者の意識改革はどうしても話題に上がります。**家庭**と**地域**のお力とアイデアをいただきながら解決に向かえればと思っています。

さて、5月31日は、喜々津小学校運動会です。まずは、この日へ向けて、**な**かよく**み**んなで突き進んでいけたらと思っています。

学校の最大の役割は、子供を伸ばすことです。この点に関しては、我々教員同士は、切磋琢磨しながら進んでいます。今朝も、松崎教頭、峰主幹、城本教務と、各学級を見て回り、互いが感じた状態や雰囲気の変化を共有し、必要に応じて担任に声を掛ける等したところです。ときには関係職員が校長室に集まり、アイデアを出し合いながら困り感のある児童の対応を検討するなど、同僚性も発揮しながら前を向いています。

想定外の高温多湿の気候、一度雨が降ったら乾かない運動場・・・様々な障壁も何とか乗り越えながらやっています。

どうか皆様。皆様の温かい応援・支援が、^{みなぎ}学校の力を漲らせ子供を躍動させます。

ご多用とは存じますが、ご来校お待ちしております！！